今月の
選者

江 草 由 佳 (国立教育政策研究所教育研究情報センター)

趣味と実益：英語で読書を楽しむ 英語の児童書に見るLibrary

情報管理 53(10), 581-584, doi: 10.1241/johokanri.53.581 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.53.581>)

グローバル社会の中で情報・学術に関わる者にとって、英語を用いたコミュニケーション能力の習得は避けては通れなくなりつつある。しかし、よほど差し迫った状況でなければなかなか英語習得だけのための時間を作ることは難しい。そこで、「趣味の読書を楽しんでいたら、気付いたら英語が読めるようになっていた」を実現した自身の経験を元にその方法を紹介する。

『いっぱい読めばしっかり身につく 今日から読めます 英語100万語！』古川昭夫，河手真理子著；酒井邦秀監修

日本実業出版社，2003年，1,470円（税込）

http://www.njg.co.jp/kensaku_shousai.php?isbn=ISBN4-534-03572-1

大学院を卒業して、就職してすぐの頃、職場近くの本屋で見かけた『めざせ100万語！ 読書記録手帳』

を買ってから、通勤のお供は英語の本になった。この読書手帳は、英語の学習法の1つであるSSS英語学習法の読書記録のための手帳である。SSS英語学習法とは、簡単な英語で書かれた、辞書を引かずに自分がスラスラと読める本だけを読む、おもしろいと感じる本だけを読む、つまらなかつたら途中でどんどんやめる、わからないところは飛ばす、とすることでとにかく単位時間あたりにたくさんの英語を読むことを優先する英語学習法である。読みたい本がどれくらい簡単か、読みやすいかという指標にYL（読みやすさレベル）があり、これが低いものほど読みやすい。このYLを付与した本のリストがあるのでそれを元に一番レベルの低いものからかたつぱしから読んでいくのである。この英語学習法についてこれ以上詳しくは「SSS英語学習法」のコミュニティーサイト (<http://www.seg.co.jp/sss/>) や『いっぱい読めばしっかり身につく 今日から読めます 英語100万語！』を読んでいただきたい。

そんなわけで、私は日本語よりも英語の本を多く読んでいる。もう正確には数えていないが、薄い本ばかりなので、500冊くらいは読んでいるかと思う。分量はハリーポッターシリーズの1巻の80冊分くらいか。英語の勉強だと思ったらこんなにたくさん読めなかっただろう。とにかく英語で書かれた本を読むことが楽しく、もっと時間を作って読みたくてしかたがないという状況を作ったので、これほど大量に読めた。これが冒頭の「趣味の読書を楽しんでいたら、気付いたら英語が読めるようになっていた」という

状況である。

私が読んできた中からお薦めの本かつLibrary（以降は図書館と読みかえる）が登場する本を、英語の読みやすさの順で紹介してみたい。簡単な英語で書かれた本を紹介することに主眼を置くので英語の本の紹介となるが、今回紹介する3冊と1シリーズのうち、1冊と1シリーズは日本語へ翻訳されたものがあり、1冊は英単語が2語であとはイラストのみのものである。残りの1冊も非常に簡単な英語で書かれている。英語に興味がない人にもお薦めする。

『Library』 Hunt, Roderick; Brychta, Alex
Oxford University Press, 2008.

The cover image is reproduced by permission of Oxford University Press.

<http://ukcatalogue.oup.com/>

なんとこの本、タイトル以外は、1語もない。すべてイラストからなる本である。これ以上簡単な英語の本はないだろう。イラストだけであるが、いろいろイギリスの図書館が垣間見える。例えば、最初のページは、お父さんが渋い顔をして、なにやらお金を払っているシーンである。カウンターの後ろの貼り紙には「LIBRARY FINES」とあり、罰金について書かれている。延滞したため罰金を払っているところだろうか。日本の図書館の場合、たとえ延滞したとしても罰金を払わされることはないが、海外の図書館ではよく見かける光景のようである。

この本は、イギリスの小学校1年生もしくは幼稚園

児程度を対象とした教科書の一冊である。たった8ページのイラストだけとはいえ一冊まるごと図書館だけを扱った教科書が登場することは印象深い。日本の小学校の教科書でここまで図書館が全面に出ることはあるだろうか。

『Curious George Visits the Library』 Rey, Margret; Rey, H.A.
Houghton Mifflin Company, 2003.

<http://www.houghtonmifflinbooks.com/features/cgsite/books.shtml>

*表紙写真掲載の許可が間に合わなかったため、写真がありません。

「ひとまねこざる」もしくは「おさるのジョージ」シリーズの一冊で、邦題は『おさるのジョージ としょかんへいく』である。有名な絵本のシリーズなのでご存じの方も多いのではないかな。

おさるのジョージが友達の黄色い帽子のおじさんと一緒に図書館に行き、ジョージが一騒動起こすところをユーモアたっぷりに描いている。例えば、お話会に参加してはじめはおとなしく話を聞いているジョージ。ブックカートに自分が読みたい本を大量に入れて、ブックカートごと家に帰ろうとしてブックカートを百科事典の棚にぶつけ、ボランティアを含め、みんなで散らばった本を棚に戻すなどのシーンがある。

図書館ボランティアが本の排架をしたり、ジョージに本が借りたいなら利用者カードを作ろうねと教えたりしているのが印象的であった。なるほど、図書館ボランティアってこんなことしてるんだなと。

『Magic Tree House』 Series, 28vols., Osborne,
Mary Pope
Random House, 1992～2003.

<http://www.randomhouse.com/catalog/display.pperl?isbn=9780679824114>

*表紙写真掲載の許可が間に合わなかったため、写真がありません。

Magic Tree Houseシリーズは全28巻ある（29巻からはMerlin Missionsシリーズとなる。日本語に翻訳されたものは2巻ずつで1冊となっているので14巻まで）。古代の図書館の魔法使い兼ライブラリアンのモーガンを助けるため、8歳の兄ジャックと7歳の妹アニーが不思議なツリーハウスの中で見つけた本を手にとると同じ時代・場所に飛んで冒険を繰り広げるというお話である。2人の冒険を通してさまざまな歴史的なイベントや事柄を自然に学べるように作られたシリーズで、1冊ごとに異なるテーマを学ぶことができる。例えば第1巻は恐竜時代に飛んで、ティラノサウルスに遭遇するなどである。全28巻の中には本や図書館にまつわる話題も随所に見られる。例えば、第24巻では、1906年のカリフォルニア大地震を取り上げ、Sutro Libraryというある私立図書館が、避難所に避難させた貴重書は、その避難所が火事になってしまったため燃えてしまい、避難させなかった図書館の本は燃えなかったという皮肉な事実なども盛り込まれていたりする。シリーズ全体を通して読むと図書館や本の大事さ、知識を伝えることの大事さのアピールが随所に見られる。

まじめなジャックとおてんばなアニーのコンビが繰り広げる冒険がスリリングでユーモアがあり、ぐいぐいと読まされる本で、あっという間に読み終わってしまう。それでいて、歴史的な事実も学べるというお得なシリーズである。

『The Empty Envelope』 Roy, Ron
Random House, 1998.

<http://www.randomhouse.com/catalog/display.pperl?isbn=9780679890546>

*表紙写真掲載の許可が間に合わなかったため、写真がありません。

小学生仲良し3人組（ディンク、ジョシュ、ルースローズ）のまわりで起こる不思議な出来事を解決していくA to Z Mysteriesシリーズの一冊である。

この本の中に逆さに絵が印字された切手の意味について調べるというシーンがあるのだが、これが興味深い。

なんと彼らは、切手について調べようとなったら、いの一番に図書館を訪れる。そして、図書館に入てすぐに、カウンターの図書館員に「あら、あなたたち真つ赤な顔して、そんなに急いでどうしたの」（以降、セリフは意識である）と声をかけられる。そして、彼らが「切手に関する本を教えてください」と尋ねると、「ひとくちに切手の本といってもいろいろあるわよ、アメリカの？ 外国の？」などとやりとりして、切手についての本のレファレンスのシーンが続くのである。切手の本を手に入れた後の彼らの行動もまたすごい。ちゃんと切手の本の索引を使ってみごと必要な情報を取り出すのである。その後も彼らは過去のニュースを調べるために、先程の図書館員にお願いして過去の新聞を入手して調べたりもしている。

これらのシーンはいろいろ興味深い。調べものはまず図書館に行こうという彼らの発想、図書館員に聞けば教えてくれるという想定での行動、本を使って調べる方法つまり、索引を使って調べることをちゃんとわかっていることなどである。アメリカの図書館利用の感覚の一端を垣間見た気がした。

『英語多読完全ブックガイド[改訂第3版]』古川昭夫, 神田みなみ編著; 黛道子, 佐藤まりあ, 西澤一, 畑中貴美, 宮下いづみ著
コスモピア, 2010年, 2,940円(税込)

http://www.cosmopier.com/shoseki/tadoku_06.html

今回は、図書館をテーマに紹介したが、他にも、簡単な英語で書かれたたくさんの良書がある。それらについては、前半に紹介したSSS多読コミュニティサイトや『英語多読完全ブックガイド』にYLとともに多くの洋書の紹介があるのでそちらを参考にしてほしい。

この学習法の欠点は、簡単な英語の本は英語の簡単さに反比例して公共図書館に所蔵されている本が少ないことである。絵本やベストセラーものはそこそこ所蔵されているが、絵本は意外と英語としては難しいものが多い。そのため、読みたい本を入手するための出費が重なり、かつ本の置き場に困る。英

語習得のための学習は生涯にわたって必要なのだから、生涯教育施設である公共図書館が簡単で誰もが読みやすい本を所蔵して、共有できるといいのだが、なかなか難しいのだろうか…。

本誌の読者のみなさんはきっと読書が趣味の方が多いかと思う。そういう方にはピッタリの学習法だ。お忙しい方こそ、ぜひ、趣味と実益を兼ねて「英語で読書」をお薦めする。

執筆者略歴

江草 由佳 (えぐさ ゆか)

1976年生まれ、広島県出身。1998年に図書館情報大学卒業、2000年に図書館情報大学大学院図書館情報学研究科修士課程修了の後、2004年に筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程を修了。博士(情報学)。修了後、2005年4月から現在にいたるまで、国立教育政策研究所教育研究情報センターにおいて、教育図書館担当の研究員として従事する。また、鶴見大学文学部において司書資格科目の非常勤講師も務めており、『三訂 情報検索演習』(樹村房, 2006年)の分担執筆者でもある。専門は電子図書館, 情報検索, 情報探索行動であり、これまでに行ってきた研究には、情報検索プロトコル Z39.50, SRU/SRWシステム開発研究, 利用者のWWW上の情報探索行動研究などがある。図書館とシステムの関わりにも興味があり、Project Next-LやCode4Lib JAPAN などでも活動している。